

## \*京都府青少年育成協会会長奨励賞

### 「僕がスマホを持たない理由」

亀岡市立亀岡中学校 1年  
出村拓也

”手にスマホ耳にイヤホン目は下に

残る五感は味覚嗅覚“

現代学生百人一首（東洋大学）に掲載されたこの短歌は、今の社会を鋭く風刺していて、なおかつ僕が言いたいことを表しています。

1876年、アレクサンダー・グラハム・ベルによって発明された電話機は、昭和を代表する黒電話、そしてコードレス電話へと進化を続け、いまや生活に欠かせないものとして世界中に広く普及しています。なかでもスマートフォンの勢いはすさまじく、ここ数年の進化には目を見はるものがあります。しかし、このあまりにも速いスピードに、僕は戸惑いと恐れを感じています。

そもそもスマホとは、アメリカで数年前に作られたタッチに反応する機器で、ネットという、情報を見たり発信する機能があり、多くの人とつながることができる特徴があります。その便利さによって、日本人のほとんどが所有しており、僕の友達7割以上もすでに使用しています。しかし、僕は、スマホを持っていないし、今は買ってもらうつもりもありません。なぜなら、スマホがもつ様々な問題に巻き込まれたくないからです。少なくとも僕は高校生になるまではスマホは持たないと決めています。

では、僕が何を恐れているのか。まず1つ目は、「なりすまし」によるメールでの詐欺などの犯罪です。実は僕の母が、更には先週友達までもが、これに出くわしてしまいました。幸いどちらも未遂に済んだのですが、身近に犯罪の影を感じて危険さを知りました。

また、以前、ある友達が、無許可で別の友達の動画や写真を発信したことでトラブルになったことがありました。軽い気持ちで、その場のノリで、簡単に利用する友達。そこから発生した誤解やトラブル。情報を瞬時に共有できることの利点と、一方で拡散していく恐ろしさを痛感した出来事でした。本人が知らない間に、広まる恐れが大いにあるのです。

さらに、「依存症」の問題も無視できません。ほぼ1日中スマホをいじったり、スマホの事を考えている状態の、依存症とされる人が、日本で50万人を越えるそうです。機械の世界に夢中になって、1日中スマホをいじる姿を想像すると……。いや、既に僕が電車などで見かける光景が、あの入選作の短歌そのもののように見えるのは、気のせいでしょうか。特に、この夏配信されたポケモンのゲームは、社会現象にまでなり、街中で歩きながらスマホをする人も増えました。

スマホのマイナス面ばかりを挙げてきましたが、決して、利便性までを否定するわけでは

ありません。店舗予約、買い物に至るまで、人も物もネットでつながっていることを実感することも正直多いです。情報を簡単に入手し、それを共有できる。しかし、簡単に手に入れたものを安易に信じてよいのでしょうか。ネット上では日々さまざまな情報が飛び交っています。

「保育園落ちた。日本死ね。」

というある主婦のつぶやきは、政治を動かすほどの力を持ちました。「世の中を動かす力」を生んだ点では、ネットのもつ可能性の大きさを感じます。しかし、4月の熊本地震の際、助け合いのすばらしい発信があった一方で、耳を疑うようなデマも飛び交い、「顔が見えない」事の恐ろしさを感じたのも事実です。この「顔が見えない」ことによる「無責任さ」や「悪意」こそ、僕がスマホを恐れる一番の理由なのかも知れません。

これから先、そんな僕もスマホを持つ日が来るでしょう。その時いかに自分がスマホに「使われず」に「使いこなせる」側になれるか。そのための責任と自覚をもつ準備を、しっかりしておきたいと思います。